小児看護学

【小児看護学の考え方】

小児看護の対象は、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期の子どもである。子どもは成長発達の途上にあり、生活を維持するためには家族（養育者）が必要である。その家族との相互作用の中で、愛着形成や基本的生活習慣を確立していくため家族の影響は大きい。そのため、すべての子どもが健全な成長発達を遂げられるように、子どもと家族に対して健康の保持増進や回復を促すことが小児看護の役割である。

近年の子どもと家族を取り巻く環境は、少子化・核家族化・価値観の多様化などに伴い、急激に変化している。医療については、入院期間の短縮化、在宅医療への推進、少子社会による小児病棟の閉鎖や混合病棟の傾向が見られている。今日、子どもの生活習慣病の増加、心の問題、育児不安、児童虐待など子どもを取り巻く社会や家族に関わる子どもの健康問題が増加している。さらに、高度医療に対応するためには、小児看護の専門性や看護の質の向上が求められている。医療技術の進歩により、救わる命もあれば、疾病をコントロールしながら在宅で過ごす子どもいる。そのため、入院している子ども以外にも健康障害をもちながら生活している子どもと家族がいることを認識する必要がある。

小児看護学では、疾病や障害をもつ子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもの成長発達をふまえて健康障害をもつ子どもと家族に必要な看護を学ぶ。

〔 目的 〕

小児期にある対象を理解し、対象に必要な看護実践をするための基礎的能力を養う。

〔 目標 〕

1. 小児看護の対象と成長発達について理解できる。
2. 健康障害をもつ小児と家族の看護について理解できる。
3. 小児疾病と健康障害に応じた看護について理解できる。
4. 小児と家族の特徴をふまえて看護過程の展開方法が理解できる。

【構成および計画】

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間			
			1年	2年	3年	
小児看護学概論	1	30	30			
健康障害をもつ小児の看護	1	30		30		
小児疾病と健康障害に応じた看護	1	30		30		
小児の事例演習	1	15		15		

科目名	講 師		単位数	1
小児看護学概論		二宮 恵美	時間数	30

科目目的 ： 小児看護の対象となる人の特徴を理解して、成長発達を促す看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。

科目目標 ： 1. 小児看護の対象と役割が理解できる。
2. 小児各期の成長発達と看護が理解できる。
3. 子どもと家族を取り巻く社会について理解できる。

講義回数	学 習 内 容	
1～2回	1. 小児看護の特徴	1)小児看護の対象 2)小児看護の目標と役割 3)小児看護の変遷 4)小児看護における倫理
3～12回	2. 小児の成長発達と看護	1)成長発達総論 2)成長発達の評価 3)小児各期の成長発達と看護 (1)新生児期 (2)乳児期 (3)幼児期 (4)学童期 (5)思春期・青年期 4)子どもの遊び 5)子どもの安全
13～14回	3. 子どもと家族を取り巻く社会	1)子どもと家族 2)子どもと家族の諸統計 3)子どもに関する法律
評価	筆記試験、課題レポート	
テキスト	系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)	
備考		

科目名	講 師		単位数	1
健康障害をもつ小児の看護		二宮 恵美	時間数	30

科目目的 ： 健康障害をもつ子どもと家族の看護に必要な基礎的知識を学ぶ。

科目目標 ： 1. 疾病が子どもと家族に与える影響と看護を理解できる。
2. 症状を示す子どもと家族に対する看護を理解できる。
3. 小児看護に必要な基本的看護技術を習得できる。

講義回数	学 習 内 容	
1～2回	1. 疾病が子どもと家族に与える影響と看護	1)疾病が子どもに及ぼす影響 2)入院中の子どもと家族の看護 3)外来における子どもと家族の看護
3～4回	2. 症状を示す子どもの看護	1)主な症状 (1)発熱 (2)脱水 (3)けいれん (4)呼吸困難 (5)嘔吐 (6)下痢
5～8回	3. 小児看護に必要な技術	1)コミュニケーション 2)身体的アセスメント 3)バイタルサイン測定 4)身体測定 5)検査・処置 (1)与薬 (2)輸液管理 (3)抑制 (4)採尿 (5)吸入 (6)吸引 6)技術演習
9～14回	4. プレパレーション	1)成長発達に応じたプレパレーション 2)プレパレーションの実際
評価	筆記試験 課題レポート	
テキスト	系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論 (医学書院) 根拠がわかる 小児看護技術 (メヂカルフレンド社)	
備考		

科目名	講 師	鈴木 俊輔 他	単位数	1
小児疾病と健康障害に応じた看護			時間数	30

科目目的 ： 小児疾病と健康障害に応じた子どもと家族の看護に必要な基礎的知識を学ぶ。

科目目標 ： 1. 小児期にみられる疾病の病態・症状・治療が理解できる。
2. 子どもの事故と救急について理解できる。
3. 子どもの健康障害に応じた看護が理解できる。

講義回数	学 習 内 容	
1～8回	1. 小児期にみられる主な疾患	1）染色体異常・先天異常：ダウン症候群、18トリソミーなど 2）新生児疾患：呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症など 3）代謝性疾患：糖尿病など 4）内分泌疾患：下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患など 5）免疫・ｱﾚﾙｷﾞｰ性疾患：ｱﾚﾙｷﾞｰ疾患、食物ｱﾚﾙｷﾞｰ、気管支喘息など 6）感染症：麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ肺炎、髄膜炎など 7）呼吸器疾患：細気管支炎、肺炎、百日咳など 8）循環器疾患：先天性心疾患、川崎病など 9）消化器疾患：口唇口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ﾋﾙｼｭｽﾌﾟﾙﾝｸﾞ病、腸重積症など 10）血液・造血器疾患、悪性新生物：白血病、神経芽腫、ｳｲﾙﾑｽ腫瘍など 11）腎・泌尿器・生殖器疾患：ﾈﾌﾛｰｾﾞ症候群、尿路感染症、尿道下裂など 12）運動器疾患：先天性股関節脱臼、骨折など 13）耳鼻咽喉科疾患：中耳炎、アデノイド増殖症など
	2. 子どもの事故と救急	1）頭部外傷、誤飲、溺水、熱傷など 2）救急処置
9～14回	3. 子どもの健康障害に応じた看護	1）急性期にある子どもと家族の看護 2）周手術期の子どもと家族の看護 3）慢性期にある子どもと家族の看護 4）終末期にある子どもと家族の看護 5）災害時の子どもと家族の看護 6）心身障害児の子どもと家族の看護
評価	筆記試験 課題レポート	
テキスト	系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 （医学書院） 系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論 （医学書院）	
備考		

科目名	講 師		単位数	1
小児の事例演習		二宮 恵美	時間数	15

科目目的 ： 小児看護に必要な看護過程の基礎的能力を学ぶ。

科目目標 ： 健康障害をもつ子どもと家族の看護過程の展開ができる。

講義回数	学 習 内 容	
1回	1. 小児の看護過程の特徴	1)病態生理、症状、治療、看護 2)成長発達状況 3)基本的生活習慣の自立状況 4)疾病・入院が子どもと家族に及ぼす影響
2～7回	2. 事例の展開	1)情報収集 (1)小児の情報収集の視点 2)分析・解釈 (1)11の機能的健康パターンを用いた情報収集・分析・解釈 (2)考えられる問題の抽出 (3)考えられる問題の統合 (4)関連図 3)看護計画立案 (1)看護目標 (2)援助計画 4)評価の視点と方法
評価	筆記試験 課題レポート	
テキスト	系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論 (医学書院) ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断(ヌーベルヒロカワ) アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断(医学書院)	
備考		